

感染症研修（BCP）

令和7年6月11日 実施

場所：地域交流室

社会福祉法人 真秀会

研修の目的と背景

目的：

- 社会福祉法人真秀会の事業継続計画（BCP）に基づいた、感染症発生時の実践的対応能力の向上と定着
- 感染症対策キット（備品）の適切な活用方法の習得と緊急時対応の円滑化
- ゾーニングや個人防護具の正しい着脱による感染拡大防止の徹底と二次感染リスクの低減

背景：

- 令和6年4月1日施行の事業継続計画（BCP）新型コロナウイルス対応：入所版に準拠した職員研修の義務化
- 昨年度研修で確認した備品保管場所の再確認と、より実践的な実地シミュレーションの実施による対応力強化

シミュレーション概要とシナリオ

内容：

研修室を「新型コロナウイルス感染症が発生した居室」と見立てた、実践的シミュレーションを実施してください。

シミュレーションの3ステップ：

- ・ 感染症発生の認知と初期対応の想定
- ・ 必要な備品の迅速な調達と確認
- ・ 感染対策としての居室環境の整備と個人防護具の装着



想定シナリオ：

- ・ ある入所者様の体調が急変し、新型コロナウイルス感染症が疑われる状況が発生。
- ・ この緊急事態に対し、BCPに基づき、職員が迅速かつ適切に対応する一連の流れを体験する。

シミュレーション (1): 備品の確認と取得

フェーズ：

感染症発生を想定し、必要な備品を迅速に取りに行く

実施内容：

- 備品庫（倉庫）への移動から、感染症対策キット（PPE、消毒液など）の確認と迅速な取り出し訓練
- EZ100（オゾン発生装置）本体、電源コード、リモコン、アース線の同梱確認
- 災害時用非常食（クラスター時用弁当箱等容器 1週間分 10人前）の保管場所確認
- **ポイント：**
 - 緊急時における備品保管場所の明確化と、迷うことなく迅速に取り出せる手順の徹底
 - 備品リストとの照合による内容物の確認と破損の有無の確認



(3F北1号室 ナイロングローブ、エプロンなどの防護服)



(3F北1号室 ナイロングローブ、エプロンなどの防護服)



(3F北2号室 EZ100・ペールなどの備品)

(3F北2号室 EZ100・ペールなどの備品)



(3F北3号室 非常食・コップなどの食器)



(3F北4号室 移動式テーブルやスタンドなどの備品)



シミュレーション (2): 居室への備品セッティング

フェーズ：

- 感染対策として備品を居室に正しくセッティングする

実施内容：

- ゾーニングされた感染エリア（汚染エリア）内での備品配置訓練
- 簡易ベッドの傍らにサイドテーブル、不織布マスク、使い捨てキャップ、手指消毒液を配置
- EZ100（オゾン発生装置）と蓋つきゴミ箱（感染性廃棄物用）の適切な設置



セッティングの様子

↓ 模範的な設置例 ↓



ガウンテクニックの実践指導

看護師による個人防護具（ガウン）の正しい着脱指導と実践 実施内容：

- ・ 実際に使い捨てのガウンを着用し、特に**脱ぎ方**に焦点を当てた実践指導
- ・ ガウンの汚染部分が体や清潔な部分に触れないよう、内側に巻き込むように脱ぐ手順を詳細に確認
- ・ 感染リスクを最小限に抑えるための具体的な動作を繰り返し練習

重要事項：

- ・ ガウンは1ケアごとに廃棄します。
- ・ 外側が感染しているということを前提に、外側を内側にして外します。
- ・ フェイスシールドを着用している場合は、マスクの二重着用はしなくてもよいです。
- ・ ナイロングローブを外したのちには、アルコールによる手指消毒を必ず実施します。

詳細は別添【ガウンテクニック：目的と手順】を参照



ポイント: 着用時エプロンを床に触れさせない



ポイント: 着用時うしろでくる(前にもってこない)



ポイント: 着用時手袋はエプロンのうえにする

ポイント: 脱衣時汚染部分を内側に巻き込む①



ポイント: 脱衣時汚染部分を内側に巻き込む②



ポイント: 脱衣時汚染部分を内側に巻き込む③



感染経路の種類と特徴

内容：

感染症が広がる主な経路について理解を深めることで、適切な対策に繋がります。

1. 接触感染 (Contact Transmission)

特徴: 感染者との皮膚や粘膜への直接的な接触、または手すり・ドアノブ・タオルなどに触れた後、自身の口・鼻・目に触れることで感染。

例: 咽頭結膜熱、インフルエンザ等

ポイント: 「口は感染症の入り口になりやすい」

2. 飛沫感染 (Droplet Transmission)

特徴: 感染者の咳やくしゃみによって、ウイルスや細菌を含んだ飛沫が空気中に約1mの範囲で飛び出し、それを口や鼻から吸い込むことで人に感染。

例: インフルエンザ、おたふくかぜ、百日ぜき、風しん等

3. 空気感染 (Airborne Transmission)

特徴: ウイルスや細菌が空気中に1mを超えて（飛沫核として）漂い、離れた場所にいても口や鼻から吸い込むことで人に感染。

例: 麻しん、水痘、結核等

4. 経口感染 (Oral Transmission)

特徴: ウイルス等に汚染された食物を十分に加熱しなかったり、感染者の手指を介して汚染した食品を摂取することで感染。

例: ノロウイルス感染症、ロタウイルス感染症等

詳細は別添・感染経路イラストを参照

EZ100(オゾン発生装置)使用方法

内容：

EZ100（オゾン発生装置）の正しい操作方法と活用

実施内容：

- EZ100の電源投入、リモコン操作（モード、タイマー、風量、吸引、電源ボタン）の確認
- タイマー設定やモード切り替えなど、具体的な操作手順の実践
- 本体に記載されている注意事項の確認（「人がいる時、くん蒸運転をしない」「裸眼で覗いたり、座らない」など）

意義：

- 感染症対策備品の効果的な運用方法の習得と、緊急時の円滑な利用
- 安全かつ適切な使用による感染症予防体制の強化と二次感染リスクの低減



まとめと今後の課題

本日の研修成果：

- 社会福祉法人真秀会の事業継続計画（BCP）に基づく感染症対策の具体的な手順を再確認
- 備品場所の把握、ゾーニング、備品セッティングの実践的シミュレーションを実施
- ガウンテクニックの正しい着脱方法、EZ100の安全な使用方法を習得

今後の課題：

- 定期的な研修とシミュレーションの継続実施による職員全体の対応能力の維持・向上
- 新たな感染症リスクや状況変化への対応策の検討とBCPへの反映
- 職員間の情報共有と連携体制のさらなる強化、および役割分担の明確化

研修受講後は . . .

レポートを 7 月 1 0 日までに事務所まで提出してください。

お疲れさまでした。